

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	「自分らしく穏やかに生きがいを歓喜(よろこび)」という理念を掲げ、職員の見やすい場所に掲示し、ミーティング時には唱和し仕事に臨んで。またカンファレンスや会議で話し合う際も、理念に基づく支援になるよう全員で心掛けている。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	☐ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	定期的に行われている行事はあるが、職員体制が不十分で参加出来ていない。 地域の文化祭に作品展示は出来た。 7/7(月)西山町自治会館にて行われた研修会に職員が1名参加した。 (詐欺・救急車の適正な使用)。 また、地域のボランティア(吹奏楽・人形劇)が来館した際に合同行事として参加する機会もあった。	地域の盆供養祭など参加出来ていない行事があった。 出来る限りは参加したいが、できない場合もある。 可能な範囲内で参加を促していく。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	入退居や行事、事業所内研修、面会や事故などの現状を報告している。 地域行事について情報を頂いている。 外部評価の際は運営推進会議のメンバーから意見を頂いている。	スムーズな入居調整が出来ていないのも運営上の課題となる。 地域の新たな情報や、支援が必要な方の情報交換ができるように発信を行っている。		待機者や申込者などの情報を発信していく。
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	☐ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	市の事業者係担当者とは、いつでも相談できる関係である。	困ったことや不明なことがあれば主に電話相談を行い、回答を貰っている。		

5	身体拘束をしない ケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人として原則身体拘束は行わないとしている。 事業所内に身体拘束等の適正化の為に指針を掲示し、全職員・来所者が閲覧・確認できるようにしている。 3ヶ月に1回、身体拘束等防止対策委員会を行っている。 1年に2回事業所で勉強会を行い、理解を深めている。	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	明らかな身体拘束や虐待は行われていないが、利用者、家族に不快を感じさせるような不適切なケアが行われていないかどうか常に振り返る。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	虐待防止マニュアルや関連した資料を全職員・来所者が閲覧できるようにしている。 職員会議でも事例検討を交えたり、職員に振り返りを促す事もしている。 1年に2回事業所で勉強会を行い、理解を深めている。 また入居者の状態を日々観察し変化があれば記録に残し、職員同士が話し合いの場を設けスピーチロックや不適切なケアになっていないか意識している。 法人で行われる虐待防止委員会にも参加している。	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	明らかな身体拘束や虐待は行われていないが、利用者、家族に不快を感じさせるような不適切なケアが行われていないかどうか常に振り返る。
7	権利擁護に関する 制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている ☒ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	事業所で勉強会を行っている。 現在、成年後見制度を利用している方はいないが、必要であれば活用していきたいと思っている。		
8	契約に関する 説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	主に管理者が行っている。 契約時に契約書・重要事項説明書の内容を読み上げて、説明を行い理解してもらっているようにしている。 利用料の改定時には同意書をもっている。		

9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	職員に直接意見できるように、日頃から家族との会話を大切にして話しやすい環境を作っている。 感染対策等で面会制限している為、近況報告を該当月の写真と一緒に送付している。 意見があれば事業所や拠点で話し合い、運営に反映させている。		☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	複合施設である拠点事業所の利点を充分活かした対応を行う。 頂いたご意見は改善点を協議して、早期の改善に努める。 今後は施設見学の希望に応えていきたい。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	管理者を含む職員参加の職員会議や各ユニットの会議では職員一人ひとりが意見できるように、声を掛け意見を促している。 また、年に2回、管理者との個人面談を設け、管理者は上席者に相談報告し、運営に反映させている。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	日々の業務の内容は、管理者が中心となって現場の職員と協議して改善・見直しを行っている。 重要な案件は法人本部にも相談や提案を行っている。		☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	法人本部や他事業所からの助言や支援を受けながら管理者と職員が丸となって課題に対してチームで取り組む。 必要な業務改善を適宜行う。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	☐ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	法人内、施設内・外の様々な研修に参加の機会がある。 系列で行われる初任者・実務者研修については受講費用の貸与制度もある。 一人ひとり年間の個人研修計画を立てている。		☐ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	必要な資格の取得やスキルアップのための研修等にも積極的に望むことができる環境作りを行う。 事業所内のウェブ環境も活用する。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	法人内のグループホーム間では情報交換をしている。 入居申し込みで希望あれば各事業所に知らせて共有している。 協力医療機関連携会議(2回/月)では安岡病院や他事業所と連携している。			協力医療機関連携会議では病院だけに限らず、他のグループホームや他サービス(特別養護老人ホームのショートステイ、老人保健施設、小規模多機能など)と入退居や感染などの情報を共有している。

14	本人と共に過ごし 支えあう関係	職員は、本人を介護される一方 の立場におかず、暮らしを共にす る者同士の関係を築いている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	人生の先輩として尊敬の意を表し、本人 のペースに合わせ、本人の思いを大切 にしている。 入居時には紹介を行い、生活に馴染め るように職員が間に入って交流の橋渡し を行っている。			介護記録は本人・家族の言葉を抽 象的に書かずに、発言やシチュエー ションが思い浮かぶように記載す る。
15	馴染みの人や場との 関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた 馴染みの人や場所との関係が途 切れないよう、支援に努めている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	外出して馴染みの方に会う事は難しい が、面会制限の中で交流は出来ている。 遠方で面会が難しい方とは、電話で対応 する事がある。 移動美容室の利用も可能だが、 通い慣れた美容院に出掛ける方もいる。	家族対応にて馴染みの美容院の利用 や県外への温泉旅行など関係性の継 続に努めている。		
Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生 活環境、一日の過ごし方の希望や 意向の把握に努めている。	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居時に本人・家族から知り得た情報や 本人の発言内容を介護記録(ふれあい記 録)やセンター方式のシートに書き起こ し、職員が共有できるようにしている。 認知症等で希望や意向の把握が困難な 場合はセンター方式を活用している。			
17	チームでつくる介護 計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題 とケアのあり方について、本人、家 族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイデアを反映 し、現状に即した介護計画を作成 している	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	長期・短期プラン更新時にはアセスメント を実施、カンファレンスを行い本人や 家族の要望など聞きプラン作成に反映さ せている。 状態の変化に応じて臨時でカンファレン スを行いプランを変更することもある。 必ず全員に意見を出してもらって話し合 い、ケアプランを作成している。	職員1人につき入居者2名程度に担 当者が1名付いている。 担当者の意見を踏まえながらプランに 反映させている。	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
18	個別の記録と実践へ の反映	日々の様子やケアの実践・結果、 気づきや工夫を個別記録に記入 し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かし ている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ふれあい記録・バイタル・排泄・食事摂取 量の記録を個別に作成していて、職員全 員が共有・把握している。私の姿シートに はすぐに書き込めるようにしておりプラン 更新時には、プランの実施状況と合わせ て見直しに活かしている。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者の言動に変化があれば、職 員間で共有している。 日々体調等が変化する入居者一人 一人の把握に努めている。

19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	面会等の制限がある為、定期的な近況報告は郵送でキーパーソンにお知らせしている。 状態の変化等は電話にてタイムリーに伝えている。 家族や本人の希望があれば、電話を取り次いだり写真を送ることもある。 施設内の他事業所と合同の行事に参加する機会がある。	複合施設の利点を活かしながら家族からの支援を含めて総合的な支援を実施している。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	☐ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	西山町の文化祭に作品を出展できた。 松涛会の文化祭にも2人参加できた。 嗜好品や生活用品を職員と一緒に地域の店へ買い物出来たが頻度は少ない。 要望を聞き、職員が買ってくることもある。	出掛ける利用者が少なかった。暑い時期や寒い時期は外出を控えていた事もあるが、もう少し出来たはずだったという反省点はある。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	入居時に主治医を紹介し説明した上で同意を得ている。月2回主治医による往診があり、近況を報告している。 電話やメールでの相談・報告も随時行っており、常時連絡が取り合える体制を整えている。			健康状態が維持できるように努めている。体調不良などがあった場合は、受診対応や薬の処方、主治医からの指示を受けて対応している。
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	入院時は速やかに病院の担当相談員と情報交換を行い、早期の退院ができるように努めている。入院中も、現状報告や相談等、電話で病院の担当相談員と情報交換を行い本人や家族の不安が減るように働きかけている。		☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	急性期病院に入院となってもその後のフォローに協力病院もある。協力病院との定期的な情報交換を行っている。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	☐ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	入居時、重度化した場合における対応に係る指針についての説明を行い、本人や家族の意向を確認している。 状況の変化の際には主治医や看護師・家族に相談しながら、意向に沿えるよう努めている。 終末期に関しては訪問看護師等との連携を図り対応しているが、より専門的な医療ケアの体制は行っていない。		☐ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	終末期の対応は行っていないが、もし実施となれば協力病院・訪問看護の支援はもとより御家族の理解も必要となる為、入居時に説明し確認している。家族への状態説明も文書や電話・面談の方法で行っている。

24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	急変・事故発生時の対応について事業所で勉強会を行っている。 事故発生時には原因と再発防止策について職員間で討議している。 法人で行う事故対策委員会でも実際の事故を取り上げ予防策を検討している。 職員会議では類似の事故を防ぐ為の事例検討も行っている。			緊急時の対応について勉強会を行っている。 また実際に起こった際には後日に対応方法について振り返りをして職員で共有している。
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	年2回、昼・夜想定での避難訓練や年1回の防災訓練を行っている。 避難経路や消防設備の使用法など体験する事で身に付けている。 「災害時情報共有システム」では、早期の被災状況を報告する訓練にも参加。 また朝礼で施設内の消火設備の種類・位置を報告し、確認している。	情報の公表では県に情報(災害の状態)を提供している。	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	避難訓練の内容については様々な状況を考えながら実施している。 近隣の協力を得ながら災害時の対応を事業所で取り組んでいる。 朝礼で消火設備の種類・位置を報告・確認している。 BCPも職員間で理解を深めていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	☐ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	1人ひとりに合わせた言葉掛けや場面に合わせた対応を心掛けている。 その人にとって理解しやすい言葉や距離で声を掛けている。入居者に関する耳に入ってはいけない会話などは、入居者に分からないように配慮している。 また、事業所の勉強会でも認知症の方に対するコミュニケーションやケアについて座学やシミュレーションも交えて学んでいる。		☐ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	引き続き一人ひとりの尊重とプライバシーの保護に努める。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	☐ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	当日のスケジュールを立てる時に事前の意思確認を行い、本人のペースで過ごせるように支援している。			一日のスケジュールはあるが、本人、家族の意向に合わせて入浴や衣類を着替える頻度・時間を調整している。

28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	皿は陶器やガラス鉢も使い、目で見て食事を楽しめるように盛り付けしている。 食後は食器拭きや片付けを一緒にしている。 職員間で話し合い、食事が摂りやすいセッティングにも配慮している。	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事は入居者様にとっての楽しみである為、美味しく食べれるような雰囲気作りや、行事の時も楽しめる内容で食事を提供している。 家族に渡している通信にも食事関係の写真を掲載するなど、雰囲気伝わるように心掛けている。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	管理栄養士が栄養バランスを考えた食事を提供している。 食事量・水分量は各個人ファイルに記録している。 足りない時は補食や栄養補助食品を提供して補っている。		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	起床時、毎食後に口腔ケアを行い清潔保持に努めている。 義歯は夕食後に預り、毎日洗浄・消毒している。 年間に2回(4・11月)協力歯科の回診があり、必要時には往診で治療している。	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個人別に排泄表に記載している。 一人ひとりに合わせた方法で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	排泄の自立は大切な事である為、自立を促しながら出来ない部分を支援している。 身体機能や能力が維持できるように可能な範囲でトイレでの排泄を行っている。 状態に合わせて声掛けや、用品など工夫している。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	週に2回のペースで入浴している。 希望あればいつでも入れるように対応している。 冬至など季節の湯を用意している。 浴槽に浸かれない場合はシャワー浴で対応を行い、身体を温めている。		

33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入床時間や室温・照明等は一人ひとりの様子を見ながら昼夜問わず安心して過ごせるよう支援している。 静養の時間も人に合わせて取り入れている。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個人別に薬のファイルがある。 薬情報は直ぐに確認できるようにしている。 当日の服用薬は時間別、個人別に管理してある。服薬時には、職員2名でダブルチェック(日付・氏名・服用時間・服用量)を行い、本人にも同様の方法で説明を行っている。 服用後は口腔内に残っていないかも確認して、空袋をダブルチェックして誤薬防止に努めている。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	配薬時も含め、チェックの際も声を出して薬袋の記載文字を読みあげることでミスを防ぐように努めている。 1度のミスが大変なことになる為、職員間で共通の認識として意識して取り組んでいる。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	趣味の塗り絵や脳トレ、家事や出来る事をして他者や職員と一緒に喜び合ったり、当日の役割作りをするなど、毎日を楽しみ過ごせるように支援している。 センター方式を活用し、ケアプランに反映させ一人ひとりに合った内容を提供できるよう努めている。 嗜好品や生活用品を職員と一緒に買い物出来たが頻度は少ない。 要望を聞き、職員が買ってくることもある。	日々の趣味活動やお手伝い等の提供や月に1回は行事を開催して他者との交流を促している。 外出の頻度が少ない為、家族からの支援を含めて機会を確保していきたい。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	当日の天候によっては、事前に本人に確認し希望あればベランダなどの戸外で日光浴や散歩を行っている。 松涛会の文化祭にも職員同伴で外出。 個別で御家族と参加も2組だが出来た。 家族旅行も行けた方がいた。	一泊の家族旅行に行く入居者がいるなどコロナの影響が緩和されつつある。 家族も関われる機会の行事の開催を計画する等関わりを大切にしたい取り組みを行っている。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	☐ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の希望がある場合は家族と相談の上、支障のない程度の現金を所持することが出来る。			

38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	希望があれば、家族や友人といつでも電話で話せるようにしている。 手紙も書けるように支援している。			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	季節の飾りを利用者と一緒に飾って、季節を感じられるようにしている。 共用空間は転倒の支障になる物を置かないようにしている。 大きな窓から入る自然の光や音、風も感じられるように、その時々に合わせて配慮している。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者と職員が一緒に飾るなど会話を楽しみながら取り組んでいる。 1年を通して季節毎に楽しそうな飾りがあり施設内で季節感を感じることができている。 海の見える大きな窓も解放感があり過ごしやすい。
IV. 本人暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居前に本人及び家族から意向を聞き、ケアプランを作成している。 ケアプランの内容を実施するなどの際は、事前に意思確認を行っている。			職員は本人の心理面などを考慮した対応を行う。 気分が良い時と悪い時など、声掛けや寄り添い方も状態に合わせていく。
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	収集した情報をアセスメントやセンター方式で書き起こし、職員間で共有した上でケアにつなげている。 信頼関係を築き、安心した生活を送ってもらえるように努めている。			アセスメントやセンター方式を活用し、早い段階で信頼関係が構築されている。 声掛けや他者への紹介などを行い、交流も促している。
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	居室や共用部分はバリアフリーになっている。朝食後には体温や血圧測定を行ない、午後からも体温測定を行なっている。 週に3回、訪問看護師の来所。 月に2回、主治医の回診で日頃の状態や生活状況の報告を行っている。 訪問看護師や主治医とは24時間、連携出来る体制も整えている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者の転倒が数か月に1回起こっているが的確に対応できている。 安全安心な環境で過ごせるように職員間で小さな情報でもミーティング(短時間でも)を行い共有する。

43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人のペースや習慣を大切にし、本人や家族・ケアマネジャーからも情報の聞き取りを行い生活の変化を小さくするようにしている。本人のペースで生活が送れるように、事前に声掛けや説明を行い、本人が納得した上でやっている。			
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	自宅で使っていた家具や寝具など使い慣れた物や家族の写真・アルバムも持ち込むようお願いしている。環境が変わるダメージが少なくなるように働きかけている。		☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	A. 十分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人や家族の意向によって、外出や外泊も参加出来ている。戸外への外出も意向の確認を行なって参加している。(文化祭や買い物)	ひまわり会では音楽祭をしようと思っている。踊り等も開催予定。ケアハウスフロイド彦島も見学する。地域交流を図っていきたい。		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	生活の中で役割を担って過ごせる様に、働きかけを行っている。負担が偏らないように出来る時に、出来る方へ依頼している。			
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	1日のスケジュールの中で本人に確認しながら家事や趣味活動などを取り組んでいる。会話の場面では入居者同士が和気あいあいと話せるように職員が橋渡しも行っており、関係づくりを支援している。		☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域の代表者から「家族の方と入居者のお母様が会話され楽しそうに生活されていることを十分に感じました。」と意見を貰っており今後も関係作りに努めていく。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている ☒ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域の行事に参加を増やして、交流する機会を持ちたい。	家族からの協力も含めて外出に頻度を増やすことが出来るようにしていく。		
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員が声掛けしたり、他者との交流の橋渡しを行って、安心した生活が送れている。	「入居されている皆さんの様子は明るく見える。」今後も継続してほしい。	☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今後も安心した生活が送れるように努める。